NUSOM Summer Program に参加して

名古屋大学医学部医学科 5 年
中野　和生

１．概要

2026 年 7 月 7 日から 7 月 13 日までの 1 週間で、NUSOM Summer Program に参加させていただきました。このサマープログラムには、本学の生徒に加え、デューク大学をはじめとする名古屋大学の海外協定大学の学生が参加しました。今回のサマープログラムは、医療倫理や感染症についての講義や xR センターの見学に加え、岐阜で地域医療を体験できる機会も設けられていて、留学生とともに医療の相違点や課題について考えることができる大変すばらしいプログラムでした。

２．内容

(1) ラボツアー、xR センターの見学

初日と 2 日目には、病院と研究室のツアーと xR センターの見学を行いました。老年内科の研究室では、多剤併用と処方カスケードについて学びました。単にそれぞれの疾患のガイドラインに従って処方するのではなく、他の疾患の治療との関連も踏まえて処方を最小限にする努力が必要だと感じました。また、xR センターについては、ポリクリで何回か来たことがあったものの、扱ったことのないシミュレーションに多く触れることができ、バディーの学生と体験しつつ、意見を交換することができました。

(2) NCGG の訪問

2 日目の午後には、大府にある国立長寿医療研究センターを訪問しました。運動機能や筋力の測定を通じたフレイルの評価が印象に残っています。超高齢化社会が進む中で、適切な医療を一人一人に提供することにつながる重要なことだと感じました。運動機能をサポートする器具などは、適切に用いることで患者さんの QOL を維持したり、転倒を未然に防いだりすることができる画期的なツールだと思いました。

(3) かがやきクリニック・Cam Cam swallow の見学

3,4 日目のかがやきクリニックの訪問をはじめとする岐阜の滞在が、今回のプログラムで最も濃密な時間でした。かがやきクリニックでは、市橋先生に訪問診療の意義と患者さんの血液検査の評価についてレクチャーを受け、留学生と数人のグループを作ってディスカッションを行いました。留学生が訪問診療に付き添った患者さんについて、症状だけでなく、身体的、社会的な問題について、それらの関連と介入について考えました。Cam Cam swallow では、嚥下機能の低下した人でも食事を楽しむための工夫について学ぶことができました。

3 日目の午後には、留学生とともに日本の伝統文化に触れることができました。美濃市では、地域医療について学びつつ、浴衣を着て文化体験を行いました。長良川の鵜飼いも

初めて間近に見ることができ、その幻想的な景観と守られてきた伝統を目の当たりにして大変感動しました。

３．感想

今回のプログラムに参加する前は、留学生ときちんと英語でコミュニケーションがとれるのか、英語で医療について議論することができるのかなどがとても不安でした。しかし、実際に参加してみると、留学生の皆さんはきちんと自分の拙い英語にも耳を傾けてくれて、医療に関することはもちろん、文化の違いなども含めて多くのことについて語り合うことができました。自分は将来、地元で地域医療に携わりたいと考えていて、その意味でも今回のプログラムは将来のキャリアについて考えることができる大変有意義なものでした。また、患者さんの診療を行う際に、病気について考えるだけでなく、その背景や環境についても考え、生きがいや small happiness に注目して、何がその患者さんにとっての幸せなのかを考えることが重要だと感じました。将来患者さんに携わる際に、今回のプログラムで学んだことを活用したいと思います。そして、今回英語で医療について考え議論した経験を糧に、来春の留学に向けて準備を進め、留学をより実りのあるものにしようと思います。

４．謝辞

今回の Summer Program につきまして、貴重な機会をくださいました国際医学教育学の粕谷教授をはじめ、入念な準備と当日の進行をしてくださった長谷川先生、アレ先生、笠井様、鬼頭様、宮川様、市橋先生をはじめとするかがやきクリニックの皆様、プログラムに携わったすべての方々に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。





